



ジュウガツザクラ

**陶史の森からのご案内**  
**バードウォッチング (自由参加)**  
 10月25日(日)、11月22日(日)  
 午前9時～11時  
 ※集合場所は林泉の池堤防  
**葉っぱのしおりづくり教室**  
 (要申込：定員20人)  
 11月1日(日) 午前9時～11時  
 ※集合場所はネイチャーセンター

秋の陶史の森は、イチヨウやモミジなどの葉が赤や黄色に色付き、緑一色だった園内を鮮やかに彩ります。この美しい紅葉の中で、ひそかに咲く桜があります。「ジュウガツザクラ (十月桜)」です。春と秋に花を楽しめる二季咲きで、「広義の冬桜」の仲間に分類されます。同じく二季咲きの「シキザクラ (四季桜)」と一見似ていて混同されがちですが、正式には異なる品種です。花の咲き方や品種の由来に違いがあります。シキザクラは、一重咲きで花びらは5枚。淡いピンク色

のかわいらしい小輪を咲かせます。エドヒガン系のコヒガンとマメザクラの交雑種です。一方、陶史の森を彩るジュウガツザクラ (写真) は、半八重咲きで花びらは10～20枚。少しよじれた花びらが、華やかな印象を与えます。マメザクラとエドヒガンの種間雑種で、江戸時代から記録が残る古い品種です。今年もまた、変わらぬ場所で優しく花を開きます。

この時期ならではの「桜」と「紅葉」が織りなす、ちょっとした不思議でぜいたくな景色をお楽しみください。

## 桜と紅葉の共演 ージュウガツザクラー

トキハク  
プロジェクト

新博物館準備だより

学芸員は、いま何してる？

美濃陶磁歴史館  
(☎55-1245)

## 第30回 地域の文化財を調査研究すること

近年、崇禎寺(妻木町)にある仏像の調査で、その内部から墨書(墨で書かれた文字)や写経などが見つかりました。発見があったのは、寺を開いた初代住職・果山正位の像です。墨書に至徳3年(1386年)と記されていたことから、今から640年前、果山の十七回忌に合わせて像が造られたことが明らかになりました。

また、写経は三河地方の尼僧が果山の供養のために記したことが分かり、これまで謎に包まれていた果山の出自が、すかに見えてきました。

仏像の胎内からこうした納入品が見つかったのは、土岐市では初めてのことです。長年大切に守られてきた文化財を改めて調査することで、地域の歴史が一つ解き明かされました。

これほどの大発見はめったにありませんが、地域の文化財を丹念に調べることで、暮らしの変化や歴史が見えてくる可能性があります。



崇禎寺 果山正位坐像

例えば、白鳥神社(鶴里町柿野)に残る180枚以上の棟札(建築・改築などの記録札)の中には、昭和30年(1955年)に祭りの行事を「花馬」から「子ども獅子」の奉納に切り替えたことを記したものがあります。

祭りの行事を変更した背景には、トラックの普及などで主に運送に利用されてきた馬が地域から減ったことがうかがえ、たった一枚の木札から時代の移り変わりを読み取ることができます。

このように、地域に残るさまざまな文化財を地道に調査・記録し、未来へ伝えていくことは、私たち学芸員の大切な役割の一つです。